

平成 30 年度ノリ養殖概況

竹本浩之*¹・林 浩志*¹

養殖環境 漁期中の岡山市における降水量の推移を図 1 に示した。10, 11 月は高気圧に覆われ晴れる日が多く、降水量は平年よりかなり少なかった。12 月は湿った空気や寒気の影響で曇りや雨の日が多く、平年より多かった。1 月は冬の気圧配置が弱く、平年より少なめから平年並であった。2 月は気圧の谷や寒気、湿った空気の影響で雨または雪の日が多いものの平年並であった。3 月は天気が短い周期で変わり、平年並であった。

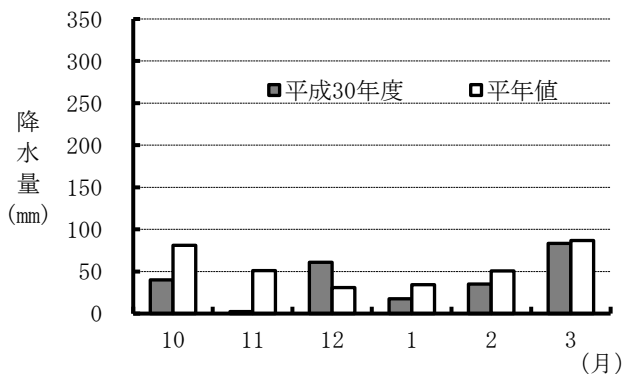


図 1 平成 30 年度漁期月別降水量の推移 (岡山地方気象台)

牛窓沖水深 2m 層における日平均水温の推移を図 2 に示した。水温は 10 月上旬から徐々に平年値を上回った。11 月上旬から 12 月上旬の水温低下が鈍く、12 月上旬には平年値を 2℃以上上回る日が見られた。その後も 3 月まで平年値を 1℃以上上回る日が多かった。

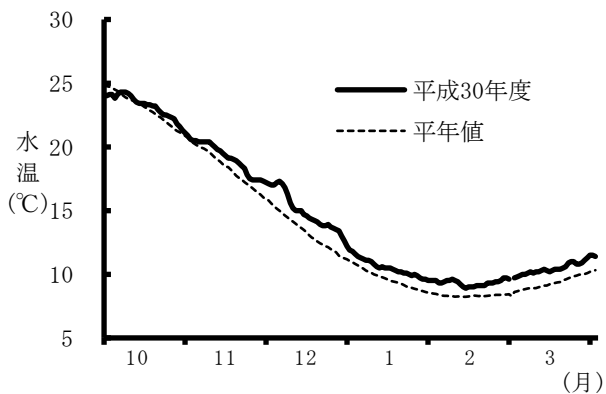


図 2 平成 30 年度漁期牛窓沖水温の推移

漁期中のノリ養殖漁場における溶存態無機窒素濃度の推移を図 3 に示した。12 月中旬まで 10 μM 以上で維持したが、その後、小型珪藻である *Chaetoceros* 属が増加し、1 月上旬に 2 μM を下回った。

大型珪藻である *Coscinodiscus* 属及び *Eucampia* 属の大規模な増殖は特に見られなかった。

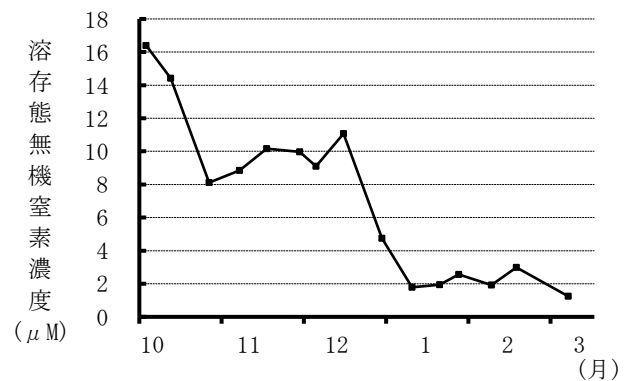


図 3 平成 30 年度漁期の溶存態無機窒素濃度の推移

養殖経過 漁期中のノリ養殖状況について漁業者に聞き取り調査を行った。

10 月 21 日に牛窓沖で育苗開始の目安となる 23℃を下回り、順次育苗が開始されたものの、育苗期間中の水温低下が鈍く、また網の汚れが目立つなど、育苗には非常に厳しい養殖環境であった。

本張りは、11 月 12 日頃から順次開始された。食害や生理障害が原因と思われるバリカン症様の症状が散見された。

生産は、犬島周辺では 11 月下旬、水島周辺以西の漁場では 12 月上旬から開始された。生産開始当初から品質は良好であったが、一部の漁場では、葉体の伸びが悪く、摘採に至らない網が見られた。12 月下旬になると、水温の降下とともに徐々に葉体の伸長が改善されたものの、年内の生産量は伸び悩んだ。

1 月上旬には小型珪藻 (*Chaetoceros* 属) の増殖により栄養塩濃度が低下し、水島周辺以西の漁場では色落ちが見られた。1 月下旬には、小型珪藻の減少とともに栄養塩濃度が若干回復し、色落ちしていた葉体の色調

*¹ 岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課

は回復した。以降、大型珪藻の大規模な増殖がなく、また間欠的に降雨があったことから、栄養塩濃度がある程度維持され、笠岡周辺漁場では 2 月下旬まで、他の漁場では 3 月中旬から下旬まで生産が継続された。

生産結果 年内の生産が低迷したものの、3 月中旬から下旬まで生産が継続された漁場が多かったことか

ら、生産枚数は昨年度を若干下回る約 1.8 億枚（前年度比 92.8%）となった。平均単価は、全国的な不漁と葉体の色調が漁期を通じて概ね良好であったことから、11.79 円（前年度差+2.06 円）と高水準となった。生産金額は 21.0 億円（前年度比 112.5%）と前年を上回った。